

ア) 基本方針

(1)	サービススペックに関する事項を課題とするか	スペクトル管理を議論する本SWGでは、このような課題はふさわしくない
(2)	上り拡張方式の検討	JJ-100.01第2版で適合性確認を行うことが妥当である
	長延化方式の検討	第3版に向けて検討することについて賛成
(2)	1.1MHzを越える周波数を使う方式の検討	第3版に向けて検討することについて賛成
	リモーターミナルDSLの検討	第3版に向けて検討することについて賛成
(3)	保護システム(クラス分け)の見直し	見直しは必要ない
(4)	総量規制の導入検討	具体的な規制の方法等不明点が多いため必要なし
	線路長制限を廃止し、収容制限のみに限定すべき	線路長制限を行うことは有益であり、継続すべき

イ) 保護判定基準の見直し

(1)	保護判定基準は一定のサービスレベルを基に規定すべき	意見なし。
(2)	ISDNを適合性確認の干渉源から排除したい	ISDNは考慮すべき
(3)	距離3.5km(0.4mmPE絶縁)で4Mbps(下り)、400Kbps(上り)を確保したい	反対である
(4)	緩和値(マージン)の設定	一元性、公平性のある場合について検討すべき
(5)	保護マスクの導入の是非	保護マスクの導入については議論の余地はあるが、具体的な値の設定などの課題も多く、また現状の保護判定値に対する保護マスクの有益性も認められない
(6)	EUがFDMの下り帯域に及ぼす影響を、少なくともOLがFDMの上り帯域に及ぼす影響と同程度にまで規制すべき	上りと下りを同等に評価、規制することは賛成
(7)	第2版通りの運用をすべき、見直しする合理的な理由がない。	第3版が規定されるまで第2版での運用を行うべき

ウ) 線路モデル、干渉源、計算方法の変更

(1)	線路長(損失)の定義および各式の整合性	従来通りで良い
(2)	干渉源の数	従来通りで良い
(3)	2.7km超線路長でのISDNの扱い	従来通り5kmまで同一カッド収容想定で良い
(4)	長延化方式用モデルおよび適用距離	5kmまでの距離において長延化方式用モデルを規定すべき。
(5)	漏話の周波数特性が正しくない	従来通りで良い
(6)	キャリアビット数[8、15、その他]	既存の計算方法との整合性から、従来通り8bitで良い
(7)	マルチゲージモデルを導入すべき	モデルが複雑化するため、導入すべきでない
(8)	漏話条件に1回線漏話を追加すべき	追加すべきでない
(9)	第2版通りのモデルで十分、モデル変更する合理的な理由がない。	長延化方式や1.1MHz以上の新システムについては検討の余地があるが、第2版のモデルで問題ない